1999・2・21 Vol.18

まてまいて

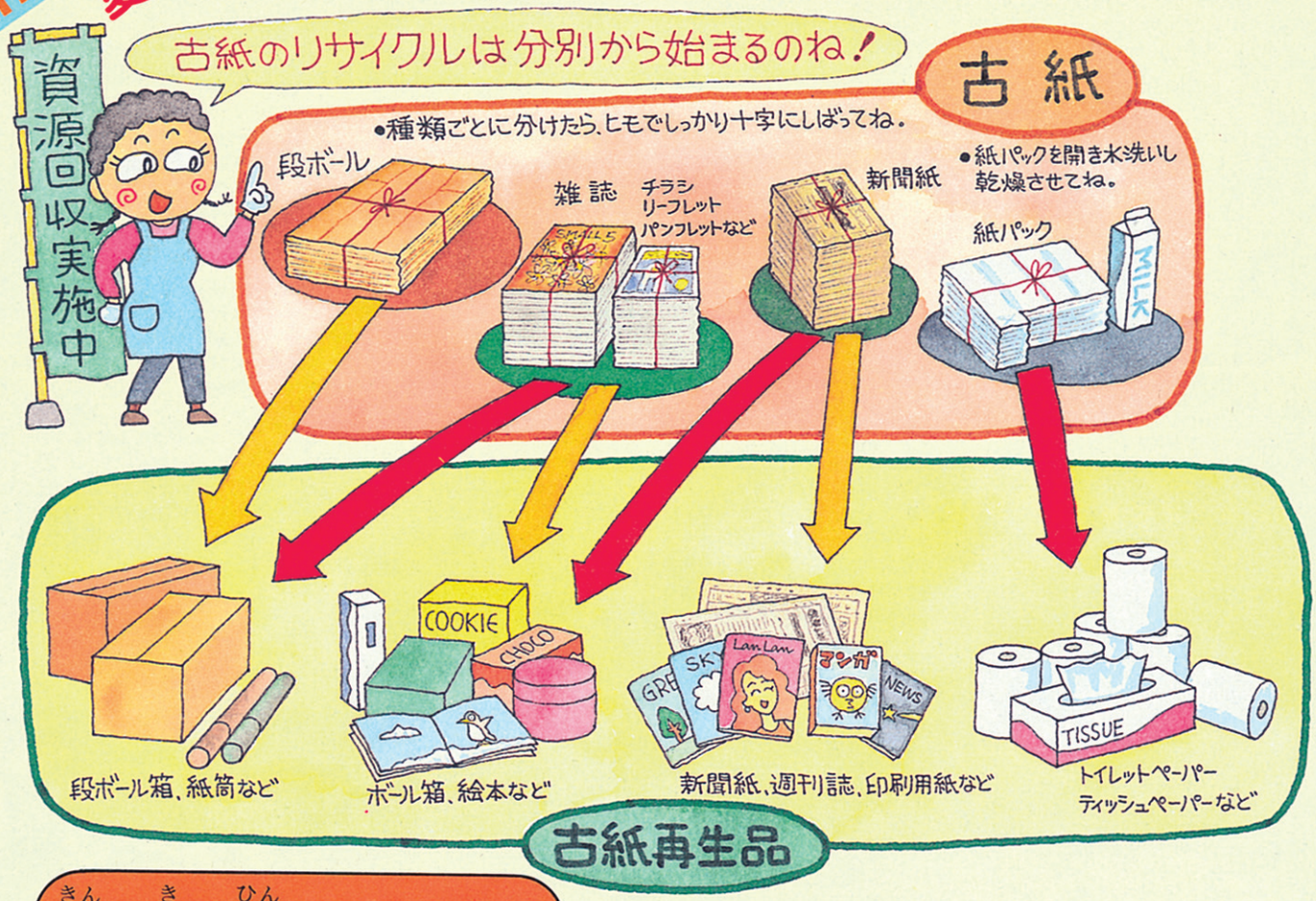
冬号

編集・発行
東京都新宿区環境部
リサイクル推進課
〒160-8581 新宿区内藤町87
TEL 3209－1111㈹
年2回（8月、2月）発行

新宿リサイクル情報紙

愛ちゃん、古紙を分別するの巻

新宿区では、家庭からでる古紙は集団回収という形で集められています。集団回収の実践団体は町会や自治会が中心となって組織されていますが、最近では地域のボランティア団体、あるいは、マンション単位での集団回収活動も増えてきています。集団回収により集められた古紙資源は、分別が徹底されていて良質な原料となっており、今後一層、集団回収の拡大が期待されています。今回は古紙の分別について詳しく見てみたいと思います。



禁忌品（きんきひん）（まぜてはいけないもの）

紙コップ等のワックス加工紙、写真、粘着テープ類、ワッペン類、窓の付いた封筒等

【古紙回収について】

①月一、二回程度、町会等で行う集団回収に出しましょう。（回収品目、回収回数、集積場所等は団体代表者にご確認ください。なお、ご不明の点がございましたら、リサイクル推進課までお問い合わせください。）

②お住まいの地域で集団回収が行われていない時は、最寄りの集団回収に参加するか或いは、自分達で集団回収を始めてみませんか。（詳しくは、リサイクル推進課にお問い合わせください。）

③現在、新宿区では何らかの事情で集団回収に参加していない世帯が約半数あります。そういった集団回収未実施地域での資源回収やごみの減量と資源のリサイクルをなお一層推進していくことが、今強く求められています。そこで、東京都と特別区は様々な事情を考慮し、地域の集団回収と「車の両輪」のごとく相互補完しながら実施できる古紙の行政回収について検討をしています。次世代へより良い環境を引き継いでいくためにも資源循環型社会づくりにご協力ください。

このフロアはね、紙でリサイクルできるものは全て分別しているの。たとえば新聞紙・雑誌・チラシ・ダンボールなどそれぞれの箱を置いて再生するルートに乗せている。ごみになるものを徹底的に減らすために、フロアにできるだけごみ箱を置かないようにしているの。

って、慣れるまでストレスがたまったよ。

環面座談会●リサイクル推進課の昼休み――キンコーン、カーン（チャイムの音）あー、相変わらず、さあ、仕事だ！いつも元気だなー。まさに「人生の醍醐味は食に有り」だね。いつも食欲旺盛なのは結構だけど、そのハンバーガーの包み紙や缶の紙も種類別に分けて捨ててね。そういえばこのフロア、ごみ箱がないよね。そう、このフロアで働くようになってから紙の書き損じなどどこに捨てたらいいって、慣れるまでストレスがたまったよ。

紙類もまとめてもの凄くかさばりそう。特に古い雑誌などは、ちょっと重くて、持ち運びにくいなあ。各自分で捨てるのがいいけど、ちょっと面倒くさいなあ。「持ち帰り」という特別な回収をすることにしたら、どれいっぱいたまったら、ゴミ捨て場まで運ぶ。ゴミ捨て場は本当に遠いのだ。（東へ進む）→

紙といえば他でも買い物すると袋を下さいくる場合が多いよね。ともすると箱に入れて、忍び足でくるんでさらにこで下さいと袋をかけたりする。ん、そうそう、スーパーで買い物してもお肉屋に入れて、さらに紙袋に入れたりするんだ。君に持ち帰ると、ビニ袋とポリ袋の山になっちゃったりして、過剰な包装は本当に困りものだ。

そう、このフロアで働くようになってから紙の書き損じなどどこに捨てたらいいのか、わからない。その気持ち！紙いっぱいの場合、ちょっとリしてくて、何の…う…ちょっとリしてくて、安心して捨てられる場所がないと困ちゃうんだよなー。

新宿リサイクル情報紙 すてないで 1999年2月21日発行

論奏

リサイクルの大切さ、地球にやさしい環境づくりが叫ばれる昨今ですが、「文明は美しく化粧した暴力」と言った人がいます。「使い捨て」等、大量消費、大量廃棄の結果、もたらされた地球温暖化、ダイオキシン等の環境問題はその最たるものだと思います。

本来、自然界に「ごみ」はありませんでした。「ごみ」は、「欲望拡大型消費文明」の産物に他なりません。地球環境を破壊するのも人間なら、保護保全できるのも人間です。破壊から保護へ転換するには、一人一人の意識の中に「共生」という一貫した哲学とその哲学を実践した行動がなければ、どんな対策も小手先に終わらざるを得ないと思います。「これくらい……」と思う甘えの心、「どうせやっても……」という諦めの心を排除した消費者側の取り組みと環境を意識する社会構造が「欲望調和型の循環型文明」への道であると思うのです。

他人まかせではなく、自分にできる環境問題の取り組みを見つけ、実践してみましょう。ごみの分別の徹底。商品を買う前に必要かどうかを、捨てる前にごみにしてよいかをもう一度考える。再生紙等再生品の購入など、できるのにやらなかったことがたくさんあるはずです。

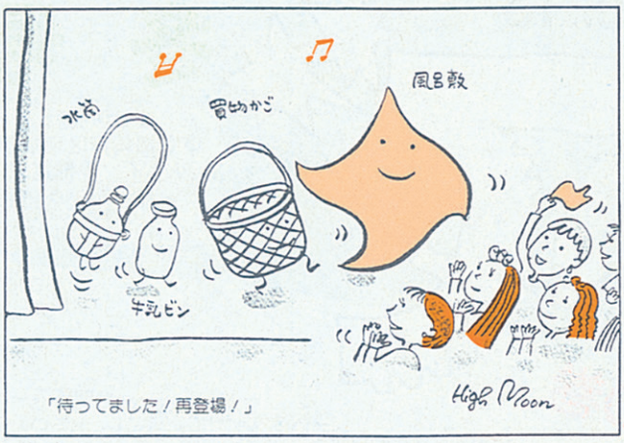
私も10年がかりで、地域のごみ問題に取り組んでまいりました。ポイ捨て禁止条例のポスターを貼ったり、竹ほうき一本握って地域清掃をする中で、今まで交流のなかった方々とも親しくなることができました。新宿のごみの現状を地域の方々と一緒に考え、ともに訴えてきた10年でした。

リサイクル推進課とPTAのお母さん方とリサイクル推進員が一体となって、小学校児童に対してリサイクルの勉強会を開催することができました。次代を担う子供たちに資源の大切さ、リサイクルを実践することの重要さを教え伝えていくことも私たちの役目であると確信しました。

私も寸法直しという仕事柄、永年着た洋服をリフォームし、大切にしています。無駄なものは買わず、再使用、再利用を重ね、家庭のごみも工夫次第で四分の一に減らすことができました。

美しい街、やさしい環境は、誰もが望んでいます。あなたも無関心、無責任ではいられません。使い捨ての生活から脱皮してみませんか？　あなたならきっとできるはずです！

（推進員　T・O）



「待ってました！再登場！」

作者註：日本の若者へグリーングッズとして定着させたいものです。
（漫画ゴミック「廃貴物」VOL.3 高月紘著 ㈱日報より）

牛乳パックからのお願いリサイクルクイズ

問題　皆さんがふだん使っている牛乳パック（1ℓ）の原料紙は、とても良質の紙パルプです。是非回収に協力してくださいネ！さて、牛乳パック30枚（約1kg）でトイレットペーパーが何個できるでしょうか。

① 1個
② 5個
③ 10個

☆牛乳パックは使用後、軽くすすいで切り開き、乾かしてから適当な枚数を紐などで束ねて回収場所に持っていってください。

はがきにクイズの答えと、住所・氏名・年齢・電話番号・ご意見ご感想をお書きの上、リサイクル推進課までご応募ください。正解者のなかから抽選で50名にリサイクルグッズを差し上げます。〆切は3月5日(必着)。発表は発送をもってかえさせていただきます。

世界のリサイクル事情 その18

4つのベクトル
——スウェーデンのチョコレート——

松田美夜子
（リサイクル研究家）

スウェーデンから一時帰国している高見幸子さん（ナチュラル・ステップ日本事務局長）からお土産にチョコレートをいただきました。スウェーデンで今、最も人気のあるチョコレートとのことです。このチョコレートには二つの保証マークがついています。

ひとつは、原料のカカオ豆が農薬や化学肥料をひかえた有機栽培であることを保証するマーク。他のひとつはカカオ豆を生産している発展途上国の労働者に適正な給料を支払っていることを保証するマーク。スウェーデンの人々はこのマークのついたものを商品の購入の目安にしているのです。

私は包装紙を開いて、再び驚きました。日本のチョコレートは銀紙（アルミ箔）で包まれていますが、このチョコレートは銀紙を使っていません。紙にプラスチックをうすくコーティングしたものを使っています。その理由はアルミ箔はアルミ缶と同じく、精錬をする時に多量の電力（1g生産する時に21.2wh必要）を消費し、精錬する時の廃液などによる環境汚染も考えて使われていないのです。私は、すでにスイスでもチョコレートは銀紙で包んでいないことを知っていましたのでスウェーデンでも行われているんだ、さすがは環境先進国と思いました。

スウェーデンの人々は買い物をする時に四つのことを常に考えて行動するそうです。

①地下資源の節約になっているか。
②化学物質の削減になっているか。
③緑の保全に役立っているか。
④貧富の公平が行われているか。

④の貧富の公平とは、富める国が貧しい国を搾取して不当な取り引きをしてはいけないということです。スウェーデンの人達はこれを四つのベクトル（方向軸）と呼んでいます。

私は二つの保証マークのついたチョコレートが日本でも一日も早く販売されてほしいと願っています。がんばりましょう。

情報コーナー

◎高田馬場四丁目10番17号には新宿リサイクル活動センターがあります。センターのあるべき姿を住民の方に検討していただいた結果、センターは住民の主体的参加によって運営されることが必要であるという提言をいただきました。これを受けて平成10年の4月から、住民有志によって構成される「新宿環境リサイクル活動の会」が発足し、当面はリサイクル活動センターで行う各種の講演会や講習会等の企画運営を通じて、ともに活動する仲間を増やしていこうということで、現在40名の仲間が活動しています。身近な生活の中での知恵や工夫を分かち合いリサイクルする楽しみを味わいながらネットワークを広げていく会です。入会希望の方は講座の開催時に受け付けておりますので是非ご参加ください。

今年の「簡易包装推進キャンペーン」は、平成11年3月4日(木)～10日(水)の一週間にわたり実施します。

第一回センターまつり

新宿環境リサイクル活動の会は新宿リサイクル活動センターでさまざまな取り組みを行っています。

リサイクル活動センターの隣にある消費生活センターでは、毎年消費生活展を開催しています。新宿環境リサイクル活動の会では、昨年11月13日、14日に消費生活展に合わせて第1回の「センターまつり」を開催し750名の多数の方に参加いただきました。

手づくり作品の展示、箸おきやちょうちょを作る手づくり体験コーナー、再生品グッズの販売、ミニトーク、ミニフリーマーケット、リサイクルクイズラリー、日用品の再生修理、資源分別クイズ、再生文具の展示コーナーなど楽しい企画がいっぱいでした。

写真は会員の指導のもとナイロンたわしや箸おきづくりに打ち込む参加者 ⇨

また、センターで活動しているパッチワークの会も作品を展示していただき、彩りを添えました。

まつり当日はリサイクルについてのミニトークが4回ほどおこなわれ、トーク終了後もリサイクル全般に関するさまざまな話で盛り上がりました。

編集後記

いよいよ平成12年4月から、今まで都の清掃局が一括して行っていた清掃事業が東京23区の各区に移管されます。これまで、ごみの収集・運搬及び会社や商店の事業系からの排出物については清掃事務所が処理しており、区は各家庭のリサイクルを中心に事業を行っておりました。移管後はごみの収集、運搬（可燃・不燃・粗大等）については、各区の責任で実施することになります。

今回の特集は夏号で扱ったびん・かんの続編として、紙を扱ってみました。清掃事業の移管まで1年ちょっと、スムースな移管のために努力することは勿論ですが、ものを大事にする習慣を取り戻し、ごみの減量に向けて皆様とともに取り組んでいきたいと思います。